

交換留学報告書

氏名	加地明日香
学部/研究科・学年（留学時）	法文学部人文社会学科 3年
留学国名	大韓民国
留学期間	4ヶ月
実施年月	2024年8月25日～2024年12月20日

1. はじめに

私は、韓国蔚山広域市にある蔚山大学に4カ月間留学しました。本報告書では、交換留学を通じて得た学びや経験について報告いたします。また、この度は愛媛大学より海外派遣奨学金をいただけたおかげで、充実した留学生活を実現することができました。心より御礼申し上げます。



都市と自然が融合した蔚山の街並み(高層ビルが立ち並ぶすぐ隣には大きな公園)

2. 留学をしようと思った理由

私が留学をしようと思ったのは、特定の価値観に染まりたくなかったからである。私は生まれも育ちも愛媛県で、大学も地元を離れることなく愛媛大学に進学した。こうして長年同じ地域で生活するうちに、一つの場所にとどまっていたとしても価値観や考え方が固定されてしまうと感じた。こうして視野が狭くなれば、人生のあらゆる選択肢が狭まってしまう。しかし、自分の視野を広げたくても、「視野を広げるぞ」という気合だけでは大きな変化は望めないということも大学生活の中で経験した。そこで、自分の意思ではなく環境を変えるべきだと考え、留学を決意した。異国での生活を通して、この世界にはあらゆる価値観が存在するということを体感し、人生の選択肢をより豊かにするために海外で学ぶべきだと考えた。

3. 蔚山大学を選んだ理由

私が蔚山大学を選んだ理由は、大きく二つある。一つは、韓国の文化や人々の生き方、社会の在り方をより深く理解したかったからである。音楽を始めとする韓国文化の人気上昇をきっかけに、私も韓国について興味を持つようになったが、その中で日本と韓国では人々の考え方や価値観にさまざまな違いがあると感じた。そんな近いようで遠い国「韓国」について自分の目で確かめたいという思いが強くなり、韓国を初めての留学先として選んだ。

もう一つは、蔚山大学の学生と事前に交友関係を築くことができたからである。蔚山大学から毎年6月に短期研修生約20名が愛媛大学を訪問しており、そこでのサポートに参加することで多くの学生とつながりを持つことができた。蔚山大学は、法文学部の学生が留学した先例がなく不安だったが、研修に来た学生たちと留学前に交友関係を築くことができたおかげで、蔚山大学への留学を決心することができた。



蔚山大学メイン建物



国際連携課

4. 授業の様子

留学先では、国語国文学部という学部にも所属していた。この学部は留学生のみが所属しており、留学生のためだけの授業がすべて韓国語で提供されている。韓国語の向上を目指す授業については、読解・聴解・作文・会話・文法と技能別に開講されており、それぞれが初級・中級・上級・演習と韓国語のレベル別に4つずつ用意されている。そのため、自分の言語力に合わせて受講でき、一緒に授業を受ける学生の間でも大きなレベルの差がないため、非常に効率的な学習ができた。そのほかの授業についても、韓国文化や歴史、時事問題について学ぶ授業から韓国ドラマを分析する授業まで、学生の関心に沿った講義が幅広く展開されていた。このように留学生のみが対象で、さらにレベル別に分けた授業が提供されているため、追加で語学堂に通って言語力を補う必要がなく、余裕のある留学生活を送ることができた。

私は、韓国文化・作文・会話・文法の4つの授業を受講した。授業は1コマ50分で、韓国文化は2コマ連続、その他の3つは3コマ連続で行われた。また、ほとんどが10名前後と比較的小規模な授業であった。どの授業でも教授と学生の話す割合が同等といっても過言

ではないほど、学生の意見が重要視されている授業であった。以前は教授の力量が授業の充実度を100%左右すると考えていたが、学生と教授が双方向の授業を経験し、私たち学生が授業の主役であると気づいた。私たちの授業に対する姿勢によって、講義時間をより価値のある時間にもただ退屈な時間にもできると体感した。授業中にたびたび意見を求められ最初は戸惑ったが、他国の留学生たちの姿を見て、間違っていたとしても自分の意見を伝えようとする姿勢が重要であると学んだ。さらに、発言するためには頭の中にある考えを分かりやすく言語化する必要があるため、その過程によって自分自身の学びもさらに深まるということを経験した。

このように他国の留学生から刺激をもらいながら積極的に授業を受け、4か月という短い間ではあったが語学力の向上はもちろん、それだけに止まらない様々な学びを得た。

5. 現地での生活（住まいや食事）

私は大学敷地内にある女子寮で生活した。新築で設備も充実しており、満足度は非常に高かった。14階建てで、日本人留学生は13階から14階に割り当てられた。2人部屋で、私は同じく愛大から派遣された学生とルームメイトだった。部屋には2人分の机、ベッド、クローゼットがあり、収納スペースも十分であった。寮の1階と2階には広い自習スペースになっており、よく利用した。門限はなく、いつでも指紋認証で入ることができた。

食事は、寮生用の食堂があり、朝は7時30分から9時、昼は11時30分から13時30分、夜は17時から18時30分という時間帯で開いていた。寮の火気及び刃物禁止という規則のために料理ができず、食堂と外食で空腹を満たしていた。



14階からは学校全体が見渡せる



部屋の様子



女子寮の外観

6. 留学先で楽しかったこと・辛かったこと

留学先では、授業外の時間が充実していた。学校の目の前が、様々な飲食店やカラオケボックス、コスメショップやゲームカフェなどが立ち並ぶ通りとなっていたため、友人と一緒にご飯を食べたり、遊んだりする日が多かったからだ。さらに、先述した愛媛大学で短期研修をした学生たちが歓迎してくれ、留学生生活をサポートしてくれた。

このように韓国人の友人たちと交流する機会をたくさん得られることで、その日授業で学んだ韓国語を放課後すぐに実践することができた。授業中のインプットに加えて、すぐにアウトプットできる環境にあったことが、私の韓国語力向上に大いに役に立ったと感じている。また、学んだことが実際の会話で本当に通じた、という喜びが私の言語学習のモチベーションを常に維持し、授業や課題にも楽しんで取り組むことができた。

加えて、蔚山大学国際連携課の方が留学生向けに個別面談をしてくださったり、日本語学科の教授が日本人学生にも進路の相談に乗ってくださったりなど、親身になって私たちを支えてくださった。このような恵まれた環境のおかげで、特に辛いこともなく充実した楽しい毎日を送ることができた。このような環境を与えてくださった蔚山大学の方々、友人に大変感謝している。



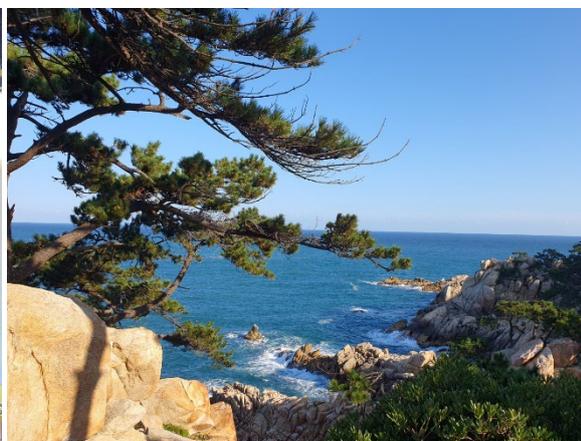
サムギョプサル



屋台の様子



試験期間は間食や飲み物の提供がある(無料)



蔚山で有名な海が見える公園

7. 目標の振り返り

最後に、目標達成度という視点から留学で学んだことを振り返る。留学当初に「特定の価値観に染まらない」という目標を設定したが、韓国での生活を通して新しい価値観をたくさん学ぶことができた。

韓国と日本の違いは多々あると思うが、私が特に違うと感じたのは物事に対する取り組み方だ。韓国では「빨리빨리(パリパリ)文化」が大切にされている。「빨리빨리(パリパリ)」とは「早く早く！」という意味で、何事もスピードを最優先に考える韓国人の国民性を指して「パリパリ文化」と呼ばれている。実際に、何かに取り組むとき事前準備よりもスタートの早さを優先し、問題が発生したらその都度軌道修正をしながら進んでいくという印象を多く受けた。

一方、日本では「急がば回れ」ということわざがあるように、確実に安全な道を通り失敗を回避するべきだと考える傾向がある。私も例外ではなく、韓国のパリパリ文化に直面したとき、もっと丁寧な仕事をしてほしいと不満に思った。しかし生活するうちに、パリパリ文化の効率の良さに感心することが多々あり、反対に自分自身が安全性を重視するあまり生産性を低下させていると気づいた。このような経験から、韓国の速度重視と日本の完成度重視は価値観の違いであり優劣はなく、どちらも一長一短であると学んだ。

最初は自分の価値観に当てはめてパリパリ文化という新しい価値観に不満を抱いていたが、それを受け入れることで「こうあるべきだ」という固定概念が取り除かれ、視野が広がったように感じた。このように、新しい価値観を知り、それを自分なりに咀嚼して吸収することができたため、留学当初の目標を達成できたと思う。

8. まとめ

蔚山大学に留学したのは4カ月という短い間だったが、私の人生にとって非常に大きな財産となる貴重な時間であった。上記のような学びを得られたのも、自分の目で異なる価値観を知り、その長所と短所を体感できたからである。留学を通して得た新たな視点は、私の今後の人生により多くの選択肢を与えてくれた。そして世界の広さを教わるとともに、自分がいかに無知であるかを再認識することができた。これからも一層勉学に励み、もっと多くの異文化を知っていきたい。

このような貴重な学びを得る機会を与えてくださった愛媛大学及び蔚山大学国際連携課の方々、指導教員の先生、友人たちに改めて心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。